

# Ⅲ. 資料

◎work◎life◎  
balance innovation

## ① | 調査票・アンケート依頼文

### 資料1

形大労第 1024号  
平成 23年 6月 24日

各学部長（附属支援施設等を含む。）  
基盤教育院長  
附属学校（園）長  
山形大学 事務局各部長（監査室、教育企画室、 殿  
大学連携推進室は室長。）  
小白川キャンパス長  
（小白川図書館、附属博物館及び  
情報ネットワークセンターを含む。）  
保健管理センター所長

山形大学男女共同参画推進室長  
理事 北野通世

男女共同参画に係るアンケートのお願い（通知）

男女共同参画推進室では、これまで過去3年度、男女共同参画に係る実態と意識の経年変化を捉えるためにアンケート調査を行って参りました。それぞれ多くの皆様にご協力頂き、結果は報告書にまとめ、室の事業に活用させて頂いております。本年度も下記の通りアンケートを実施いたします。つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、個人情報の保護には十分配慮して行いますので、配付と回収にご協力くださるようお願いいたします。

各部署で回収いただいたアンケート用紙は、7月27日（水）までに男女共同参画推進室へ送付願います。なお、回収率の確認のため、対象者に配付しなかった余りの部数を送付の際に併せてお知らせくださるようお願いいたします。

記

#### 1 実施日程：

- ①各部署へアンケート用紙の到着 平成23年7月5日（火）まで
- ②各部署での対象者への配布期間 7月6日（水）～8日（金）
- ③各部署での回収期限 7月22日（金）
- ④男女共同参画推進室への送付期限 7月27日（水）

#### 2 アンケート内容：別紙アンケート用紙の通り

#### 3 調査対象者：山形大学の全ての教職員と大学院生 各部署での対象者の数は別紙各部署対象者数の通り

教職員： 定時勤務職員及び短時間勤務職員を含む  
医学部にあつては医員及び研修医も含む  
各部署の附属支援施設等の教職員を含むので、別紙アンケート用紙の  
Q2「所属部署」の欄で確認願います。

大学院生：社会文化システム研究科（修士課程）  
教育学研究科の修士課程・地域教育文化研究科の修士課程  
医学系研究科の博士課程・博士前期課程・博士後期課程・修士課程  
理工学研究科（理学系）の博士前期課程・博士後期課程  
理工学研究科（工学系）の博士前期課程・博士後期課程  
農学研究科の修士課程・岩手大学大学院連合農学研究科の博士課程（山形大学の教員を  
指導教員にする学生）

以上の全ての大学院生を含む。  
ただし、教育実践研究科（専門職学位課程）、養護教諭特別別科は対象者に含めない。

#### 4 実施方法：過去3年度と同様に、配付及び回収方法を含め各部署に一任します。

[ 本件の問い合わせ先：男女共同参画推進室 調査担当 坂無 淳 ]  
Tel:023-628-4939 E-mail: sknsj@jm.kj.yamagta-u.ac.jp

## 男女共同参画に係るアンケートのお願い

平成23年7月8日

山形大学男女共同参画推進室 室長（理事） 北野 通世

山形大学は、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に採択され、男女共同参画推進室を中心に「山形ワークライフバランス・イノベーション」事業を行ってきました。今年度は最終年度にあたるため、事業の総括と来年度以降の方向を探るためにアンケート調査を実施することになりました。これまで同様、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、これまでアンケート調査の結果は、事業に活かすとともに、報告書として男女共同参画推進室のホームページで公開しております。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/newsletter/pdf/pdf20110331/2/2full.pdf>

また、今回の結果は男女共同参画推進室主催のシンポジウム（11月予定）で報告予定です。それにとまない、調査時期が昨年より早くなっておりますことに御理解いただけましたら幸いです。

本アンケートは個人が特定されることがないように、無記名で実施しますので、率直なご意見をお寄せください。記入後は封筒に入れて提出頂くため、各部局の担当係が内容を見ることはありません。また、回収したアンケート用紙は、男女共同参画推進室でのみ扱い、質問項目別に統計的な処理をし、分析終了後は直ちに破棄します。

ご記入後は封筒に入れて、7月22日（金）までに各部局の担当係にご提出ください。

本件の問い合わせ先： 山形大学男女共同参画推進室（小白川キャンパス事務局2階）

e-mail： [danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp) 電話： 023-628-4939（内線4939）

ホームページ： <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/>

### ※ここから質問にお答え下さい。

#### I. はじめにあなたの仕事や就学についてうかがいます。

Q1. 勤務・就学しているキャンパスについて、あてはまる1つに○をつけて下さい。

- 1 小白川      2 飯田      3 松波      4 米沢      5 鶴岡

Q2. あなたの所属部局について、あてはまる部局の番号に○をつけて下さい。

- 1 人文学部・（社会文化システム研究科）
- 2 地域教育文化学部・（地域教育文化研究科・教育実践研究科・養護教諭特別科・附属教職研究総合センター）
- 3 理学部・（理工学研究科（理学系）・高感度加速器質量分析センター・放射性同位元素実験室・理学部裏磐梯湖沼実験所）

- 4 医学部・医学部附属病院・（医学系研究科・医学部図書館・附属実験実習機器センター・  
医学部情報基盤センター・附属動物実験施設・医学部遺伝子実験施設・環境保全センター・医学部 R I センター・  
医学部総合医学教育センター・医学部がんセンター）
- 5 工学部・（理工学研究科（工学系）・工学部図書館・工学部学術情報基盤センター・国際事業化研究センター・  
有機エレクトロニクス研究センター・工学部国際交流センター）
- 6 農学部・（農学研究科・附属やまがたフィールド科学センター・農学部図書館・農学部遺伝子実験室・  
農学部学術情報基盤センター・農学部放射同位元素実験室・岩手大学大学院連合農学研究科）
- 7 基盤教育院
- 8 附属学校・附属幼稚園
- 9 事務局・（監査室・男女共同参画推進室・教育企画室・大学連携推進室）・小白川キャンパス事務部・（小  
白川図書館・附属博物館・情報ネットワークセンター）・教育開発連携支援センター・保健管理センター

**Q 3. あなたの職種（院生の方は課程）と勤務形態について、お聞きします。**

(1) あなたの職種について、最もあてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。

- |      |                     |                     |
|------|---------------------|---------------------|
| 学生   | 1 大学院生（修士または博士前期課程） | 2 大学院生（博士または博士後期課程） |
|      | 3 上記以外の学生           |                     |
| 大学教員 | 4 大学教員              | 5 研究員               |
| 職員   | 6 事務系職員（施設系・図書系を含む） | 7 教室系技術職員・教務職員      |
|      | 8 技能系職員             | 9 附属学校園教員           |
| 医療系  | 10 医療職員             | 11 医員及び研修医          |
| その他  | 12 その他（             | ）                   |

(2) 学生以外の方は、勤務形態についてあてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。

- 1 常勤      2 定時勤務職員      3 短時間勤務職員      4 その他（      ）

**※大学教員、研究員の方は Q 4～Q 7 にお答え下さい。**

**※それ以外の方は次ページの Q 8 へお進み下さい。**

**Q 4. 大学教員、研究員の方は、最もあてはまる研究領域を 1 つ選び、○をつけて下さい。**

- 1 人文科学系      2 社会科学系      3 理学系      4 工学系      5 農学系  
6 医歯薬学系      7 教育学系・教員養成系      8 総合科学系      9 その他（      ）

**Q 5. 現在の職階について、あてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。**

- 1 教授      2 准教授      3 常勤講師      4 助教      5 助手      6 その他（      ）

**Q 6. 初めて大学・研究機関（山形大学以外を含む）に勤めてから、今年度で通算何年目になりますか。**今年度から大学・研究機関で勤務している方は a に○をつけて下さい。出産・育児による中断があった方は、その年数を含めてご回答下さい。

a 今年度から大学・研究機関で勤務している⇒Q8へ

b 通算【      】年目      （出産・育児の中断期間【      】年を含む）

**Q 7. 昨年度（平成 22 年度）の教育・会議等への出席・研究についてうかがいます。**

(1) 教育活動について、大学での勤務日数、また担当授業コマ数などをお答え下さい。出講キャンパスが複数にわたる場合、本務校であれば出勤日として下さい。勤務制度上長期休業はない、授業・実習等の担当がない方は、それぞれ「・制度上長期休業はない」「・担当はない」に○をつけて下さい。

|                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| a. 学期中の大学での勤務日数          | 平均 週【       】日             |
| b. 夏休み等長期休業中の大学での勤務日数    | 平均 週【       】日 ・制度上長期休業はない |
| c. 授業・実習などのコマ数           | 平均 週【       】コマ ・担当はない     |
| d. 他大学の非常勤（集中講義は1科目を1コマ） | 平均 週【       】コマ ・担当はない     |
| e. 学生の研究指導の時間数           | 平均 週【       】時間 ・担当はない     |

(2) 学内外の会議・委員会等への出席回数をお答え下さい。また、研究活動について、出張や学術誌への掲載論文数をお答え下さい。会議の担当がない方は「・担当はない」に○をつけて下さい。

|                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| f. 学内の会議               | 平均 月【       】回 ・担当はない |
| g. 学外の会議（地方公共団体等の委員）   | 平均 月【       】回 ・担当はない |
| h. 学外の会議（学会や研究会の会合）    | 平均 月【       】回 ・担当はない |
| i. 国内出張                | 昨年度 年【       】日       |
| j. 海外出張                | 昨年度 年【       】日       |
| k. 学術誌（紀要・共著を含む）の掲載論文数 | 昨年度 年【       】本       |

※ここからは全員がご回答下さい。

**II. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関して、お尋ねします。**

**Q 8. 次にあげることについて、あなたの考えに近い番号を1つ選び○をつけて下さい。**

|  |    |      |      |      |
|--|----|------|------|------|
|  | そう | まあ   | あまり  | そう   |
|  | 思う | そう思う | 思わない | 思わない |
| A. 子どもの世話は夫婦で協力して行うべきだ                 | 1  | 2    | 3    | 4    |
| B. 結婚は女性にとって不利になることが多い                 | 1  | 2    | 3    | 4    |
| C. 夫に経済力があれば、家事育児は妻がやるべきだ              | 1  | 2    | 3    | 4    |
| D. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ                   | 1  | 2    | 3    | 4    |
| E. 子どもが3歳くらいまでは、<br>母親は仕事を持たず育児に専念すべきだ | 1  | 2    | 3    | 4    |
| F. 家族を（経済的に）養うのは男性の役割だ                 | 1  | 2    | 3    | 4    |
| G. 日本の大学は女性の教職員が少ない                    | 1  | 2    | 3    | 4    |
| H. 本学の女性教員はもっと増えてもよい                   | 1  | 2    | 3    | 4    |
| I. 本学は女性が働きやすい環境が整っている                 | 1  | 2    | 3    | 4    |
| J. 本学は女性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある             | 1  | 2    | 3    | 4    |
| K. 本学は男性が育児休業を取得しやすい雰囲気がある             | 1  | 2    | 3    | 4    |

**Q 9. 日本の大学で女性教員や研究者が少ない理由について、どう思われますか。あなたの考えに近い番号を1つ選んで○をつけて下さい。**

そう      まあ      あまり      そう  
 思う      そう思う      思わない      思わない

- A. 社会的な偏見があるから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- B. 男女間には能力の差があるから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- C. 幼少期から男女で違った育てられ方をするから・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- D. 女子に高学歴を期待しない親が多いから・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- E. 中学や高校での進路指導が適切でないから・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- F. お手本になるような女性研究者が少ないから・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- G. 男性が多い職場だから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- H. 労働時間が長いから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- I. 男性を採用する傾向があるから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- J. 家庭と仕事の両立が困難だから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- K. 育児期間後の復帰が困難だから・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- L. 研究に興味を持つ人が本能的性向として女性に少ないから・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

**Q10. 次のようなことを感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。**

よくある      ときどき      あまり      まったく  
    ある      ない      ない

- A. 忙しすぎると感じること・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- B. 出勤・通学したくないと感じること・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- C. 今の仕事・就学を辞めたいと思うこと・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- D. 会議等で発言しにくいと思うこと・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- E. 性別によって異なる処遇があると感じること・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- F. 職場・学校に何でも話せる人がいないと感じること・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

**Q11. 現在、あなたが仕事・研究を行う際に障害となっている要因があるとすれば、何ですか。以下から主なものを3つまで選択し、あてはまる記号に○をつけて下さい。**

- A. 職場・研究室の人間関係
- B. 主となる仕事と関係のない業務
- C. 管理的事務
- D. 研究・業務費の金額
- E. 研究や業務のスペース・設備
- F. 研究や業務時間が十分とれないこと
- G. 研究や業務を補助する人がいないこと
- H. 女性（男性）であるための差別
- I. 妊娠・出産
- J. 育児・子どもの教育
- K. 介護・看病
- L. 家事
- M. 家族の人間関係
- N. その他(具体的に )

**Q12. 以下の法律や本学の取り組みをご存知ですか。あてはまる番号に○をつけて下さい。**

|   | 知っている | 知らない |
|---|-------|------|
| A. 男女共同参画社会という言葉  | 1     | 2    |
| B. 男女共同参画社会基本法  | 1     | 2    |
| C. 男女雇用機会均等法第8条（男女の均等な機会・待遇を実質的に確保するために）<br>女性を有利に取り扱う優遇措置が特例として認められる場合がある） | 1     | 2    |
| D. 学長による山形大学男女共同参画推進宣言（平成 21 年 1 月）   | 1     | 2    |
| E. 男女共同参画推進室の設置（平成 21 年 2 月）  | 1     | 2    |
| F. 山形大学男女共同参画基本計画（平成 22 年 6 月）  | 1     | 2    |
| G. 平成 21 年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」に本学が採択されたこと                               | 1     | 2    |
| H. 託児サポーター制度（小白川キャンパス）  | 1     | 2    |
| I. 各学部での女性研究者と学長・学部長の懇談会  | 1     | 2    |
| J. 男女共同参画関連のシンポジウムを毎年開催していること   | 1     | 2    |
| K. 全キャンパスでの女性研究者への巡回聞き取り相談  | 1     | 2    |
| L. 男女共同参画推進室のニューズレター  | 1     | 2    |
| M. 男女共同参画推進室のメールマガジン  | 1     | 2    |

**Q13. 男女ともに仕事と家庭を両立させていくには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を1つ選んで○をつけて下さい。**

|                       | そう<br>思う | まあ<br>そう思う | あまり<br>思わない | そう<br>思わない |
|-----------------------|----------|------------|-------------|------------|
| A. 性別役割分担の意識を変えること    | 1        | 2          | 3           | 4          |
| B. 仕事中心の考え方を変えること     | 1        | 2          | 3           | 4          |
| C. 職場の雰囲気を変えること       | 1        | 2          | 3           | 4          |
| D. 上司の理解              | 1        | 2          | 3           | 4          |
| E. 労働時間の短縮            | 1        | 2          | 3           | 4          |
| F. 勤務時間の弾力化           | 1        | 2          | 3           | 4          |
| G. 多様な休業制度            | 1        | 2          | 3           | 4          |
| H. 休業中の代替要員の確保        | 1        | 2          | 3           | 4          |
| I. 休業中に自宅で仕事を継続できるしくみ | 1        | 2          | 3           | 4          |
| J. 休業中の経済的支援          | 1        | 2          | 3           | 4          |
| K. 研究や授業等の支援員の確保      | 1        | 2          | 3           | 4          |
| L. 学内委員会等の負担の軽減       | 1        | 2          | 3           | 4          |
| M. 夕方5時以降の会議の廃止       | 1        | 2          | 3           | 4          |
| N. 職場内に授乳室やプレイルームを設置  | 1        | 2          | 3           | 4          |
| O. 家事のサポート            | 1        | 2          | 3           | 4          |
| P. 保育サービス利用時の経済的支援    | 1        | 2          | 3           | 4          |
| Q. 病児保育               | 1        | 2          | 3           | 4          |
| R. 介護への支援             | 1        | 2          | 3           | 4          |
| S. 両立に関する精神的支援        | 1        | 2          | 3           | 4          |

Q14. Q13 での項目の他に、男女ともに仕事と家庭を両立させていくために本学で必要と思われる支援制度がありましたら、具体的にご記入下さい。思い浮かばない場合は空欄で構いませんので、次の質問へお進み下さい。

[ ]

**Ⅲ. 最後にあなた自身やご家族についておうかがいします。**

Q15. 年齢（7月1日現在）と性別をお答え下さい。あてはまる記号に○をつけて下さい。

年齢 【 a. 24 歳以下      b. 25～29 歳      c. 30 歳～34 歳      d. 35 歳～39 歳  
e. 40～44 歳      f. 45～49 歳      g. 50～54 歳      h. 55～59 歳      i. 60 歳以上】

性別 【 a. 女性      b. 男性      c. ab 以外 】

Q16. あなたは、家事を平日1日にどのくらい行いますか。

家事・・・【      】時間 【      】分

Q17. あなたは、育児や介護を平日1日にどのくらい行いますか。育児や介護の必要な家族がない場合はそれぞれaに○をつけて下さい。育児や介護が必要な家族はいても、ご自身は行わない場合は0分とご記入下さい。

育児・・・【      】時間 【      】分      a 育児が必要な家族はいない  
介護・・・【      】時間 【      】分      a 介護が必要な家族はいない

Q18. 家族構成についてうかがいます。

(1) 配偶者・パートナーの有無や同居・別居について、あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- 1 いない（結婚したことはない）⇒Q19へ      2 いない（離別・死別）⇒Q19へ  
3 いる（同居している）⇒(2)へ      4 いる（別居している）⇒(2)へ

(2) 配偶者・パートナーがいる方にお聞きます。配偶者・パートナーは現在、収入を伴う仕事をしていますか。最もあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- 1 していない（家事専業・学生等）⇒Q19へ  
2 常勤・フルタイムで就業⇒(3)へ      3 非常勤・パートタイムで就業⇒(3)へ

(3) 配偶者・パートナーが現在、収入を伴う仕事をしていたらっしゃる方は、その職種をお答え下さい。最もあてはまる番号1つに○をつけて下さい。

- 1 会社員・団体職員（研究職以外）      2 公務員・大学職員（研究職以外）      3 民間企業の研究職  
4 大学教員・公的機関の研究職      5 自営業・家族従業者・農業等      6 その他（      ）





(2) 休んだ日数は十分でしたか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

1 十分だった⇒Q23へ

2 十分でなかった⇒(3)へ

(3) 十分でない場合、何日くらい休みが必要だと思いましたか。また、休めなかった理由があれば具体的に記入下さい。

【 \_\_\_\_\_ 】日くらい必要

⇒十分休めなかった理由 ( \_\_\_\_\_ )

Q23. お子様が病気のとき、どのようなサポートがあればよいと思いますか。最も必要だと思えるもの1つに○をつけて下さい。

- 1 病児・病後児保育    2 休んだ場合の業務の代替者    3 育児を理由に休める職場の雰囲気  
4 その他 ( \_\_\_\_\_ )

Q24. あなたの仕事（学生の方は就学）と家族の関係についてうかがいます。次の問いについて、もっとも実態に近いと思う番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

あて      まあ      あまりあて      全くあて  
はまる    あてはまる    はまらない    はまらない

- A. 仕事が原因で家族と一緒に過ごす時間が  
十分とれないでいる・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- B. 家においても仕事のことが気になって  
しかたがないことがある・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- C. 家族のあれやこれやで思うように仕事に  
時間を配分できない・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- D. 家事や育児で疲れてしまい、  
仕事をやろうという気持ちになれない・・・・・・・・ 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

**※全員がご回答下さい。**

Q 25. 最後に、本学における男女共同参画推進について、ご意見があればご自由にお書き下さい。

( \_\_\_\_\_ )

○以上で終了です。ご協力ありがとうございました。封筒に入れ、各部局へご提出下さい。